

コラム

縁の下の力持ち～関西支部事務局～に聞く

関西支部活動の特色について、事務局長の木村さん、事務員の萩原さん、谷さん、町田さんのお話を伺いました。

どのような活動をされていますか？

谷さん：組織図のように、FCCを含めた6つの幹事会と5つの委員会・グループがあります。活動内容などの詳細は関西支部HP <http://www.jscekc.civilnet.or.jp/> をご参照ください。

課題はありますか？

萩原さん：財務面では、支部活動を支える収入の約60%近くを占める賛助会費を確保するため、役員の方々にご尽力いただき、賛助会員の現状維持に努めています。

町田さん：学会員をはじめできるだけ多くの方に参加いただけるよう、魅力ある講演会・講習会を企画していくことが今後の課題となっています。

谷さん：一般市民対象の見学会は大変好評ですが、工事現場が少なくなり、企画内容の検討が必要となってきています。



写真-1 事務局



写真-2 市民幹事会主催の現場見学会

関西支部の良いところは？

谷さん：さまざまな会社・役所・学校に関係者がおられ、支部活動全般にわたって、「学会のためなら。」と快くご協力くださるところだと思います。この基盤になっているのが産・官・学をバランスよく組合せた幹事推薦の枠組みです。選出された幹事の方々が、役職や上下などに関係なく、ボランティアとして一緒に活動され、親しくなられる。これが、支部活動の源となり、また、皆様にはネットワークが広がったと喜んでいただいています。支部活動にはエネルギーの要るものが多く、幹事の皆様にかかる負担も大きいと思いますが、それをこなせる方ばかりが選出されます。これは選出母体の学会活動へのご理解と幹事の皆様のお人柄のおかげと感謝しています。

支部の運営資金は？

事務局長：本部からの交付金と賛助会員からの賛助会費などからなり、年間の予算総額は約8千万円です。本部からの交付金だけでなく、賛助団体が活発な支部活動の支えになっています。

全国大会が近々あるようですが？

事務局長：来年9月に立命館大学のびわこ・くさつキャンパスで開催予定です。関西支部の総力を挙げて取り組むべく、準備を進めています。

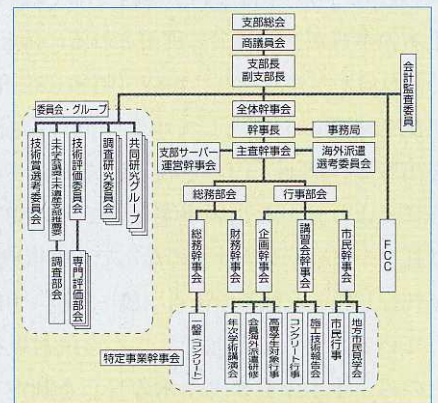


図-1 関西支部組織図

「特集」を終えて

本特集は、学会誌史上初の試みであろう「関西支部」と「編集委員会」の共同企画・編集によるものである。活発で特色ある関西支部活動の一端をお伝えできたことと思う。

FCCは、単に社会と社会基盤整備を担う土木との関わりを考える場だけでなく、多様な分野の多様な価値観を持った人たちとの本音の交流を通して、いま土木技術者として何をなすべきか、恒に自問自答し、社会性を持って、組織に埋没しない個を育む修行の場、人材育成の場でもある。社会基盤を創り守る真のスペシャリストとなるため、今日も彼らは、「公共事業って誰のため？何のため？」「合意形成って本当の意味でできるの？」等々、FCCサロンで、MLで、赤

提灯で熱い議論を闘わせている。

本特集をご覧になった皆様も是非一度、FCCの活動に加わってみてはいかがだろうか？相当なエネルギーを必要とするのも確かであるが…。

最後に、著者の皆様には、執筆を快諾いただき、また、ごく限られた誌面で論旨をまとめていただいたことに、心よりお礼申し上げます。さらに、ご多忙の折、快く座談会や取材にご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

このような機会に恵まれたことに感謝したい。

FCCホームページ <http://www.tecta.co.jp/fcc/>

(編集委員 特集主査 横野勇人)